



シンガポール

NCB 海外レポート

スマート・シティ「シンガポール」の都市風景⑫

～アジア首位のスマート・シティ シンガポールの評価～

◇ はじめに

- ・ スイスの国際経営開発研究所(IMD)が毎年公表するスマート・シティ・インデックス 2024 年版にて、シンガポールは評価対象の 142 都市のうち、アジア首位（世界 5 位）にランクインしました。
- ・ この他にも、アジアの主要都市は北京 13 位、台北 16 位、ソウル 17 位、上海 19 位、香港 20 位など軒並み高い評価を受けていますが、日本の都市は東京が 86 位と、相対的に低い位置に留まっています。
- ・ 本稿では、なぜシンガポールがスマート・シティとして高い評価を得ているのか、その背景をお伝えします。

◇ 治安・医療衛生面、教育分野などで高い評価

- ・ スマート・シティ・インデックスは、都市の公共基盤を示す「構造(Structures)」と、住民が利用できる技術サービスを示す「技術利用(Technologies)」を軸に各都市を評価しています。
- ・ シンガポールは上記の構造・技術利用面ともに総じて高い評価を得ており、特に住民への聞き取り調査では、治安・医療衛生・教育分野における高い満足度が示されました。
- ・ 治安面では、街中に設置されている防犯カメラにより安全な生活が守られている点があげられます。現在、シンガポール国内には 9 万台超の警察カメラが設置されており、政府は 2030 年代半ばまでに更に 20 万台まで引き上げることを掲げています。
- ・ 街中に防犯カメラがある、という少し物騒な印象も受けますが、住民への聞き取り調査では、住民は概ね防犯カメラの導入をポジティブに捉えているという結果がでました。
- ・ この他、医療衛生面では、衛生設備が隅々まで行き届いている点や医療診断予約のオンライン化が進展している点、また教育面では学校での IT 教育が充実している点などが評価されました。同国はこれまでも学校での PC・タブレット配布や授業での PC 活用を積極的に行っていますが、今後は特に AI 分野に重点をおき、授業での AI 学習ツールの導入も進める方針です。

◇ 個人情報の活用にもオープン ～社会課題の解決にむけて～

- ・ 前段でお伝えした防犯カメラの一例にも表れていますが、シンガポール住民には、実質的な生活面の向上につながるのであれば、個人情報の提供にもオープンな傾向がみられます。
- ・ 例えば、今回調査における「交通渋滞を改善するために個人情報を渡す意思があるか」という住民ヒアリングでは、日本(東京)では、約 35%と低い賛同率であったことに対し、シンガポールでは約 70%の回答者が賛同しています。また、「犯罪を減らすための顔認識技術の導入に抵抗がない」という設問でも約 75%の賛同を得ました。
- ・ 社会課題の解決につながるのであれば、個人情報を柔軟に活用し、新しいものを取り入れるという政府・国民の合理的な思考と姿勢が、同国をスマート・シティたらしめる源泉なのだと感じています。



シンガポール MRT 駅構内の防犯カメラ
撮影：シンガポール駐在員事務所

2024 年 5 月 6 日作成
西日本シティ銀行シンガポール駐在員事務所